

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【公開番号】特開2009-14517(P2009-14517A)

【公開日】平成21年1月22日(2009.1.22)

【年通号数】公開・登録公報2009-003

【出願番号】特願2007-176695(P2007-176695)

【国際特許分類】

G 01 B 5/20 (2006.01)

G 02 C 13/00 (2006.01)

【F I】

G 01 B 5/20 C

G 02 C 13/00

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月29日(2010.6.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

フレーム保持機構に所期する状態に保持された眼鏡フレームのレンズ枠に対して相対的に回転される基台に備えられた測定子を有し、測定子をレンズ枠の溝に沿って移動させて、測定子の移動を検知手段により検知することに基づいて、レンズ枠の三次元形状を測定する玉型形状測定装置において、

前記基台に支持された第1支点を中心にして上下方向に回転可能に配置された第1アームと、前記第1アームの第1支点から離れた位置に設けられた第2支点を中心にしてレンズ枠の動径方向に回転可能に配置された第2アームと、前記第2アームの先端側に上方に向延びるように配置された支持軸であって、第2支点を中心とした円弧軌跡の略接線方向に向くように前記測定子が取り付けられた支持軸と、を備えることを特徴とする玉型形状測定装置。

【請求項2】

請求項1の玉型形状測定装置において、前記測定子にレンズ枠溝に押し当てる測定圧を付与するために前記第2支点を中心に前記第2アームをレンズ枠溝方向に付勢する測定圧付与手段を備えることを特徴とする玉型形状測定装置。

【請求項3】

請求項2の玉型形状測定装置において、前記第1支点に対する第1アームの質量的なバランスを取り、且つ前記測定圧付与手段により測定圧が与えられる方向に対して垂直な方向の前記第1支点から前記測定子の先端までの距離と前記測定圧との積から得られる力のモーメントを略キャンセルする荷重が調整された上下動バランス機構を備えることを特徴とする玉型形状測定装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(1) フレーム保持機構に所期する状態に保持された眼鏡フレームのレンズ枠に対して相対的に回転される基台に備えられた測定子を有し、測定子をレンズ枠の溝に沿って移動させて、測定子の移動を検知手段により検知することに基づいて、レンズ枠の三次元形状を測定する玉型形状測定装置において、前記基台に支持された第1支点を中心にして上下方向に回転可能に配置された第1アームと、前記第1アームの第1支点から離れた位置に設けられた第2支点を中心にしてレンズ枠の動径方向に回転可能に配置された第2アームと、前記第2アームの先端側に上方に向延びるように配置された支持軸であって、第2支点を中心とした円弧軌跡の略接線方向に向くように前記測定子が取り付けられた支持軸と、を備えることを特徴とする。

(2) (1)の玉型形状測定装置において、前記測定子にレンズ枠溝に押し当てる測定圧を付与するために前記第2支点を中心前に前記第2アームをレンズ枠溝方向に付勢する測定圧付与手段を備えることを特徴とする。

(3) (2)の玉型形状測定装置において、前記第1支点に対する第1アームの質量的なバランスを取り、且つ前記測定圧付与手段により測定圧が与えられる方向に対して垂直な方向の前記第1支点から前記測定子の先端までの距離と前記測定圧との積から得られる力のモーメントを略キャンセルする荷重が調整された上下動バランス機構を備えることを特徴とする。